令和８年度フロンティア・アドベンチャー

「やまなし少年海洋道中」事業報告

事業概要

今年で３７回目を迎えたフロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」は、台風 13 号の接近にともない、船での出発は条件付きの出港となりました。その後は無事着岸し、八丈島の皆さんのご協力もあり、ほとんどのプログラムを予定通り実施することができ、参加者にとって充実したものとなりました。

スノーケリング、八丈島の小中学生との交流、１泊２日で八丈島内を巡る八丈島ウォークなど、参加した中学生は、様々な体験活動を通して、多くのことを学び、これまで以上に大きく成長することができました。

出発の日（８月２日）





研修初日、県庁噴水広場に山梨県各地より参加者が集まりました。７月に事前研修会を行ってから約１ヶ月が経過し、久しぶりの仲間との再会、そして、いよいよ親元を離れて旅立つということで、少し緊張した面持ちの参加者もいました。それでも、顔を合わせて話し出すと表情も和らぎ、これから始まる八丈島での生活に対し、期待に胸を膨らませる様子がうかがえました。

未来のリーダーとなるべく各自が大きく成長することを目指し、６泊７日の研修に勇猛果敢に取り組む決意を持ち、バスに乗り込み竹芝桟橋へ向かいました。

竹芝桟橋で行われた出発式では、参加者代表による力強い宣言がなされ、初日の良いスタートを切ることができました。出発式を終えた後、乗船を待つ間には、各班や係で打合せを行い、八丈島での生活を想像しながら過ごしました。そして、夜の海に浮かぶ「橘丸」に乗船し、東京湾の綺麗な夜景を甲板から眺め、その後は各自の部屋で就寝しながら八丈島を目指しました。





八丈島到着、交流の日（８月３日）



研修２日目。約10時間の船旅。台風の影響もあって波が荒く、着岸にも時間がかかりました。船酔いする参加者・指導者もいましたが無事八丈島へ上陸です。

港では、今年度も八丈町教育委員会（以降、八丈教委）を始めとする八丈町民の皆さんが、温かい笑顔で迎えてくださいました。

待合室で少し休憩し、朝食を食べ終えると、三根公民館へ向かいました。





三根公民館到着時、八丈町の小中学生が元気よく迎えてくれました。最初はお互いぎこちないやり取りでしたが、アイスブレイクを通して徐々に距離を縮めていきました。交流中の昼食は、三根婦人会による八丈郷土料理の麦雑炊や特別に用意していただいた天ぷらを各班で食べました。八丈島で取れた食材をふんだんに使った料理が、疲れた体に染み渡り、元気を与えてくれました。

交流会後半は、レクを通して山梨と八丈の子どもたちの心の距離がさらに縮まり、絆を深めることができたのでしょう。短い時間の交流でしたが、話すだけでなく、体験を共有して通じ合うものが生まれ、仲良くやりとりする様子が見られました。



そしてこの日の宿舎となる船見荘へ。お風呂に入り疲れを癒やしながら、フリータイムを過ごしました。夜は「六人会」の皆さんに「八丈太鼓」を披露していただきました。体中に響き渡る迫力ある演奏で、知らず知らずのうちに太鼓の世界に引き込まれていきました。

海洋の日（８月４日）

研修３日目は、島の醍醐味でもある海洋体験の日。午前中は八丈島の海や産業を学ぶため、「島しょ農林水産総合センター」と「くさや工場」へ。

島しょ農林水産総合センターでは、八丈島の海洋や魚の種類などを丁寧に教えてもらいました。くさや工場では、くさやの製造過程を学び、工場内を見学させてもらったり、くさやを試食させてもらったりして、八丈島の特産品について深く学ぶことができました。また、工場内のくさや汁の臭いに衝撃を受けたのもとても良い経験でした。







午後は、スノーケリング体験だったのですが、波の状況により、場所を底土海水浴場から神湊へ変更。そして今年度も八丈町で活動するフリーダイビングチーム Team BlueArch（ブルーアーチ）の方々に御指導いただきました。１ヶ月前の事前研修会では、元ブルーアーチの代表を務めていた方から特別指導を受けました。丁寧な事前指導のおかげもあって、参加者たちは八丈島の海を満喫しました。ブルーアーチの皆さんや大学生ボランティアリーダー（以降ＶＬ）を含む指導者が各班に２名以上ついてくださる手厚いサポートで、参加者は安全に楽しくスノーケリング体験ができました。

開村の日（８月５日）

研修４日目。２日間お世話になった船見荘さんへ挨拶をし、BC へ移動開始です。BC 到着後、全員でテント設営等を行いました。ＶＬの指示を聞きながら、班ごとに割り当てられたエリアに、各班テント２張りと食事用テントを、どの位置に、どんな向きで設置するか等、自分たちの今後の生活を考えて設営していきました。１ヶ月前の事前研修で学んだことを思い出しながら、仲間と協力する姿が見られました。





お昼は、漁協女性部の皆さん提供の八丈島産の材料で作った「手作り弁当（オードブル）」をいただきました。ムロアジのメンチカツバーガー、キメジマグロカレーコロッケ、カツオ味噌漬けフライ、キメジマグロの竜田揚げ、キメジマグロすり身揚げなど、どれも美味しくて、八丈島の味を満喫できました。午後も協力しながら設営作業を進め、終えた班からシャワーを浴び、その後に開村式を行いました。各班長が、自分たちが八丈島でどんなことを目標に生活していくか、この事業の目標である「友情・奉仕・連帯・開拓・交流」に基づいて、決意表明しました。参加者それぞれが士気を高める時間となりました。八丈島の地域の方のご厚意でいただいたスイカやメロンもおいしかったです。

夜は、次の日に控えた本事業最大のプログラム「八丈島ウォーク」のパッキングを行いました。自分の荷物に加えて、配布された食料や調理器具等を話し合いながら分配しました。本当に必要な物なのか、足りない物はないか、真剣に班員同士で考え、入念に準備を行いました。



八丈島ウォーク（８月６、７日）



海洋道中・現地研修のメインイベント、１泊２日の八丈島内巡り「八丈島ウォーク」。各班、自分たちで八丈島の地形や特徴を調べ、それぞれの計画を立てました。出発の時間も朝７時頃に設定した班が多く、八丈島半周に向けて元気よく BC を後にしました。晴れたり大雨が降ったり、霧で前が見えなかったり、変わりやすい天候に苦戦する班もありましたが、ＶＬ指導のもと、うまく休憩を挟みながら歩き、宿泊地へ向けて一歩一歩進んでいきました。予定より遅れる班もありましたが、暑さや足の痛みを乗り越えて、どの班も宿泊地へ辿り着き、各地の温泉で疲れを癒しました。途中、八丈島の住民の方の声援を受け、挫けそうになる心に元気をもらいました。お菓子やアイス、氷などを差し入れてもらった班もあり、ここでも八丈島の皆様の温かさを感じることができました。夜はみんなで夕食を食べ、たくさん話をして、参加者の絆を深めました。



八丈島ウォーク２日目。この日は体験活動を中心に巡ります。朝早くから宿泊地を出発し、それぞれの目的地へ向かいました。バスを使って目的地へ向かったり、自転車を借りてサイクリングを楽しんだりする班もありました。また、黄八丈体験やカフェ巡り、歴史民俗資料館で八丈の歴史を学ぶ班もありました。そして、いよいよ各班の到着。





一緒にゴールテープを切る時には、どの班も全員がやりきった笑顔で、出発前より互いを信頼し合う様子がうかがえました。先に到着した班が後続の班を拍手で迎える様子も微笑ましかったです。

夕食は、はくばく様提供のお好み焼きと、八丈教委提供の海水で茹でたジャガイモでウォーク記念パーティーをしました。

夕食後は、「ウォーク報告会」。各班それぞれに、感じたこと、印象に残ったこと、大変だったことを話しました。参加者の言葉には、八丈島の方々の優しさに対する感謝の気持ちが溢れていました。そして、最後はキャンプファイヤー。みんなでリズムよくマイムマイムを踊りました。仲間と協力して歩いた長い道のり、苦労を乗り越える達成感、互いを思いやり支え合うことの大切さ、人の優しさの有り難さ、多くのことを感じて過ごした２日間でした。



閉村・離島の日（８月８日）

研修７日目。あっという間に閉村の日を迎えました。この日も天気は快晴でした。八丈島に到着してから、今までの生活を思い出しながら、個人の荷物をパッキングしました。そして強い日差しの中ではありましたが、撤収作業を行いました。研修初日から、八丈教委の方々には、すべての場面でご協力いただきました。手際よく、順調にすべての作業が進んだのは、八丈教委のみなさんのおかげでした。本当にありがとうございました。

午後は２班ずつに分かれ、八丈町のお土産屋さんで買い物をするふるさとタイムと、ふれあいの湯での入浴タイムを交代で移動しました。



その後、八丈島空港にて合流し、離島式を行いました。羽田空港に到着し、最後の班別ミーティング。仲間やＶＬ、そして指導者、それぞれの思いを受け止め合い、じっくり八丈島での生活を振り返りました。VL とのお別れでもある現地研修最後の時間を、参加者・指導者全員が惜しみながら過ごしました。

この７日間の研修を通じて、参加者は友情や協調性、主体性を育むとともに、多くの体験活動や交流活動から学びを深めることができました。第３７回「やまなし少年海洋道中」は、参加者一人ひとりの成長を実感できる充実した研修となりました。





ありがとう、八丈島！

今年度の３７回「やまなし少年海洋道中」も、参加者一人ひとりの大きな成長とともに、一生忘れることのできない７日間を過ごすことができました。

現地研修中、いつも近くでサポート体制を整えてくださっていた八丈町教委の皆さんの多大なる御協力、さらには八丈町の方々の心温まる優しい御言葉に何度も助けられ、勇気づけてもらいました。参加者や指導者が、これまで以上に大きく成長することのできた「八丈島」に感謝しながら、今年度の「でっかい体験」は無事に幕を閉じました。